



第8回受賞作品

平成6年度

審査委員会は、書類による第一次審査で7点を選び、現地視察を行った。その結果をもって、第二次審査を行い、ハウジングデザイン賞2点、同大賞1点の入賞作品を決定した。これまでの7回はいずれも入賞作品は3点であったが、今回は十分な審議のうえ2点に絞ることに落ち着いた。毎回、前年に完成した住棟について応募のなされていたベル・パークシティは、昨年、団地全体が完成したことから、今回改めて大賞候補として審査することになり、討議の末、入賞を決定した。

最近の集合住宅の新しいタイプのひとつは、住宅と事務所の複合建築である。これにはさまざまな問題点があるが、都市居住を可能にする計画として期待されている。もうひとつは、需要者の購入ニーズに応えるために、間取り、内装、設備などに多様な選択性を与える供給手法である。今回の入賞作品の2点は、これらの新しいタイプの実現について成果を挙げている。

応募作品67点を通観して、すべてひとつの例外もなく、プロジェクト名に外国語が用いられている。英・仏・伊をはじめとして、国籍不明のもの、意味がよく分からないものがある。誠に残念な現象である。集合住宅の日本的な成熟化を図るべき時代が来ている折柄、名称のつけ方においても十分な配慮を要望したい。



社会・経済の変動の最も激しかった時期を含め、昭和55年から13年間の長期間にわたり、戸数約3500戸の広大な住宅開発中心の再開発事業を完成させたプロジェクトであり、事業主の努力を高く評価したい。個々の住戸、住棟は建築技術的に優れ、デザイン水準の高い良質の住宅である。住棟配置も敷地利用も一体としてよくデザインされ、公開空地が優れた効果を発揮しており、地域社会にうまく溶け込み、かつ、美しく楽しい住環境をつくり出している。超高層棟と中高層棟のバリエーションにより独特の都市景観を演出している。共用空間も豊かで変化に富んでおり、小ホール、ギャラリー、ショッピングセンターなどもよく利用されている。外部の緑や施設も美しく維持管理がされており、今や成熟した街となっている。良質の住宅はそこに住もう人々を守り育て、また、その人々に守られる共に成長していくものだという実感がわき起こってくる団地である。最後に分譲した住宅棟も二次取得者向けを中心としたファミリー型であり、実需中心の住宅供給の姿勢が貫かれている。ベル・パークシティ内での住み替えの希望者が比較的多いという現象は、永住型のマンション団地として定着している証左と思われる。都市住宅の供給・維持管理にひとつの模範ともなっている。ベル・パークシティは、全般にわたって大変優れた水準を達成しており、ハウジングデザイン賞大賞にふさわしいものである。

- 所在地：都島区友洲町1丁目
- 事業者：カネボウ不動産(株)、進和不動産(株)、(株)デベロッパースリー、三井不動産(株)
- 設計者：鹿島建設(株)、三井建設(株)、(株)IOE建築事務所
- 施工者：鹿島建設(株)、三井建設(株)



ベル・パークシティ (分譲)



22



オークプリオタワー (分譲)

大規模開発のメリットが十分に活かされた超高層集合住宅で、地下鉄やJRの駅にきわめて近く、商業棟と有機的につながり、各種の便利施設が整備されている。都市居住の利便性とアメニティがほどよく調和している。多様なコミュニティフロアーを8階にとり、建物内部において7階までのオフィス階と9階以上の居住階とを完全に分離しているが、両層を一体とした、美しくスマートな都会的雰囲気の深う外観デザインをつくりだしている。地区全体の外観デザインもすぐれており、技術水準も高い。住戸のバリエーションは豊富で、多様なコミュニティエリア、セントラル給湯、緊急システム等の防犯、防災の設備も十分である。質の高い彫刻、工夫された植栽、安定感のある建築デザインは、住宅のアメニティを高めており、とくに効率性合理性に偏りがちな高層集合住宅にやすらぎをあたえている。多くの都市居住者が求めている暮らしの質を高める機能を共同で保持するシステムは、これからの日本の標準的な共同住宅のモデルとなるであろう。



- 所在地：港区弁天1丁目
- 事業者：住友信託銀行(株)、(株)大和銀行、三井信託銀行(株)、三菱信託銀行(株)
- 設計者：(株)アル・アイ・エー、(株)昭和設計、(株)安井建築設計事務所
- 施工者：(株)涌池組、清水建設(株)、(株)長谷工コーポレーション

23



グラン・フェルティタ陽ヶ丘 (分譲)

古からの良好な住宅地という立地条件や敷地形状を活かした計画で、都心居住をターゲットにした高層住宅である。空気と緑と広さを求めて郊外へ出ていった市民を都心へ引き戻し、定住させるマンションとなっている。柔らかいカーブのバルコニーを四周まわした裏のない明るく優しいデザインにより、地域の雰囲気に溶け込んだシンボリック建物となっている。駐車、駐輪施設設置率も十分で、前面の公開空地も適度にとられている。また、住戸計画には、多面採光プランを用いており、居住性が高く、好感ももてる。コア型式の住棟であるが、エントランスの質も高く、コア型式にありがちな暗さも違和感なく処理されている。購入者のニーズに応えるため、ファミリータイプを中心に43種の間取りメニュー、カーペット・クロス・扉などのカラーメニュー、システムキッチン・収納家具・空調機など自由に選べるオプションメニューといった豊富なバリエーションがつくられている。地味ではあるが、これまでに試みられたいろいろな手法を総合的に用いて充実した内容となっている。



- 所在地：天王寺区小宮町3番
- 事業者：(株)長谷工都市開発
- 設計者：(株)長谷工コーポレーション
- 施工者：(株)長谷工コーポレーション

24